

決勝・計時

～ 審判員心得 ～

1. 競技会の成否は審判員によって決まる
2. 審判員とは失格をとることが任務ではない
3. 審判員は競技規則・使用機材に精通していることが大切である
4. 競技規則に基づき、公正・公平・安全をモットーとする
5. 役員間の連携を密にする
6. 服装は大会ごとに決められたふさわしいものとする
7. よりよい人間関係は大きな力となる

公益社団法人日本カヌー連盟 公認審判員の手引き

< 決勝審判員の基本事項 >

- 決勝線延長上に位置し、艇の船首が決勝線に到達した着順を判定する。
- 艇の着順判定が異なる場合は、その判定は決勝審判員の多数決による。判定が賛否同数の時は、決勝審判長がこれを判定する。写真判定装置が使用される場合の最終決定は、写真判定による。

- 時間は100分の1秒で判定する。可能であれば、写真判定の1,000分の1秒で判定する。
- 複数の艇が同時に入った場合、同着とし次位を欠番とする。
- 水路審判員の旗による合図に遅滞なく呼応する。
- 選手がフィニッシュするとき、ローアウトや体調不良による転覆に注意し、選手が正しくフィニッシュラインを通過したかどうかの確認を行う。
- 競技本部に、組み合わせ表・プログラム訂正・棄権届・選手変更届を事前に確認しておく。

< 計時員の基本事項 >

- 計時記録に関して責任を持つ。
- ストップウォッチを含む計時等の機器を事前に点検すること。
- 各競技終了後直ちに他の計時員と公式計時を検討し、直ちに決勝審判長に報告する。
- ストップウォッチは、目視で確認できる信号、もしくは通信機器による発艇合図を受けた時に押すものとし、発砲の音を聞いて押してはならない。
- 計時員は決勝審判員を兼ねることができる。



愛知県カヌー協会